

のびやかWell-being保育園 自己評価

達成度判定は、A(100%-80%)、B(80%-60%)、C(60%未満)

		2025年度	
		現在の取組及び状況	今後の改善計画・目標
		判定	
保育内容			
全体的な計画の作成			
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	A	保育の実態や、子どもの状況、発達段階を踏まえ全職員で共通理解をし、保育の質の向上を目指している。
環境を通して行う、養護と教育の一体的展開			
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A	ヒヤリハット報告の報告方法、様式を再確認した。
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	A	引き継ぎ、子どもの様子や伝え合う機会を大切に、適切な保育環境・対応が出来るようにしていく。
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境を整備、援助を行っている。	A	子どもが過ごしやすい環境設定に努め、家庭や職員間で子どもとの成長を共有している。
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	A	異年齢保育の良さや楽しみ、各年齢に合わせた主体的な活動が展開できるように、保育の内容や方法を工夫していく。
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	保育士の応答的関わりや絵本の読み聞かせを通して、子どもの心の安定や安心感につながる。初めての活動も、保育者が一緒に取り組むことで安心して参加できるように努めた。
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	個々の意欲が物論、甘えたい気持ちにも丁寧に寄り添いながら、安心して保育が身に付くように努めた。
7	3歳以上の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	子ども一人ひとりの良さや個性を大切に、相手や思いやる気持ちや支えだちと一緒に楽しむ気持ちを育めるよう努めた。
8	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	保護者との連携を密にしたり、子どもの様子に合わせた個別の指導計画を作成した。また、専門機関との連携を大切に、話し合いの機会を設けた。
9	それぞれの子どもが在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	職員間での情報共有・引き継ぎを確実に、伝え漏れがないように努めた。時間や人数に合わせて保育場所や玩具の提供方法も工夫していた。
10	小学校との連携、就学を見通した計画に基づき、保育の内容や方法、保護者との関わりで配慮している。	A	年2回の個人面談を行い、保護者の相談窓口を構えるように努めた。
健康管理			
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	A	特に感染症の流行の時期など、こまめな消毒・換気を行い、適切な対応がとれるように努めた。
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	A	引き続き、園医からの助言や指摘されたことを保護者に伝え、子どもたちが健康に過ごせるようにしていく。
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	A	緊急時の対応や心拍器など、園内研修を行い全職員で
食事			
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	A	給食員、保育士が連携をとり、食育に関する活動を計画している。図説話マニュアルを職員間で共有する。
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる環境、雰囲気づくりを行っている。	A	引き続き、子どもたちが楽しく食事ができる環境、雰囲気づくりを行っている。
子育て支援			
家庭との緊密な連携			
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	A	朝の挨拶や受け入れなど、基本的な関わりを大切に、その日の子どもを体質や様子で共有し、必要に応じて個別に、面談を実施し、情報共有を努めている。
保護者等の支援			
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	A	朝の挨拶や受け入れなど、基本的な関わりを大切に、様々な機会を活用して、保護者と一緒に関わりを築き、子どもの成長を共有している。
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	A	子どもの変化に気づくように、毎日の視察を丁寧に行い、全職員で早期発見・対応・予防に努めている。
保育の質の向上			
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	B	園内研修が思うように実施できなかったため、定期的に開催できるように計画していく。

		2024年度	
		現在の取組及び状況	今後の改善計画・目標
		判定	
全体的な計画の作成			
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	A	子どもの発達段階を踏まえ、保育の実態や家庭状況を共通理解しながら、保育の質の向上に努めている。
環境を通して行う、養護と教育の一体的展開			
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A	安全面への配慮を心掛け、環境を設定している。ヒヤリハットの共有をする。
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	A	伝え合いの機会を増やし、個々の現状をリアルタイムで共有しながら、適切な保育・対応を展開していく。
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境を整備、援助を行っている。	A	子どもが過ごしやすい環境設定に努め、家庭や職員間で子どもとの成長を共有している。
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	A	玩具の入れ替えや環境の再設定など、子の様子・現状に合わせた環境づくりの中で保育を展開できるように努めている。
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	引き継ぎ、家庭との連携を密にし、個々に合わせた生活リズムで心地よく過ごせるようにしていく。
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	保育者との丁寧な関わりや声掛けによって、自己肯定感を育み、適切な生活習慣が身に付くよう努めている。
7	3歳以上の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	引き続き、異年齢での交流機会を大切に、人を思いやる気持ちなど、精神面での心の育ちにつながるよう努めている。
8	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	事業所との連携を密にしたり、より個に合った環境が設けられるように、情報共有を密に行っていく。
9	それぞれの子どもが在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	保育者間での情報共有・伝達をしっかりと行い、伝え漏れがないようにしていく。
10	小学校との連携、就学を見通した計画に基づき、保育の内容や方法、保護者との関わりで配慮している。	A	「10の姿」を意識し、小学校との情報共有をし、子どもも保護者も就学への期待を高めていけるようにしていく。
健康管理			
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	A	発熱時にはもちろん、体調が優れない様子の時にも検診をしたり、子どもの体調管理に努めている。
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	A	園医からのアドバイスを反映し、子ども達がより快適に、健康に過ごせるようにしていく。
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	A	マニュアルの見直しや共有をし、アレルギーへの対応を共通理解していく。
食事			
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	A	図説話マニュアルの見直し、保育者間で提供していく。
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる環境、雰囲気づくりを行っている。	A	今後も引き続き、楽しい食事ができるように、計画・実施をしていく。
子育て支援			
家庭との緊密な連携			
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	A	日中に様子やエピソードなど、今後も保護者に伝えるよう、保育者間の伝達を密にしている。
保護者等の支援			
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	A	引き続き、信頼関係を築いていけるよう、コミュニケーションを大切にしている。
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	A	保護者の養育状況・環境に配慮し、全職員が把握した上で、虐待等権利侵害の防止に取り組んでいる。
保育の質の向上			
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	B	園内研修を充実させ、保育の質の向上に努めていく。

		2023年度	
		現在の取組及び状況	今後の改善計画・目標
		判定	
全体的な計画の作成			
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	A	子どもや家庭の状況等、全職員で共通理解していく。また、全体的な計画をPDCAサイクルし、保育の質の向上を図っていく。
環境を通して行う、養護と教育の一体的展開			
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A	年齢にあった環境作り、安全面への配慮を心掛けている。ヒヤリハット事例を職員間で共通理解し、日々の保育を見直している。
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	A	保育士間の会話の中で子どもの育ちや手立てが必要だと感じられることに関して、個々に合った保育に心掛けてきた。
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境を整備、援助を行っている。	A	子どもが出来るようになった姿を認めたり、一人一人の育ちに合った援助をした。また、生活習慣に関しては家庭との連携を大切にしている。
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	A	子ども達から出たアイデアを保育に取り入れ、「やってみよう」意欲を引き出すような環境の工夫をした。また、保育士も一緒に遊びを楽しむことで意欲を喚起している。
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	家庭との連携を密にし、一人一人にあったかわりをして、安心して過ごせるように配慮している。また、安全に配慮しながら環境整備を行っている。
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	子どもの意欲を大切に、「やってみよう」「できた」と、いう達成感を感じられるようなかわりをしていく。
7	3歳以上の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	まずは心の安定を大切に、子供たちが笑顔で過ごせるようになるためどうすればいいかを職員全体で考えて行く。どの子どもも安定し、様々な活動や行事に意欲的に取り組めるように努める。
8	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	職員間でその子の特性を把握し、その子にあったかわりをしていく。また、専門機関と連携を取り、助言、相談を行っていく。
9	それぞれの子どもが在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	B	朝保育、夕保育では異年齢が交わり保育しているが、危険や怪我の無いよう配慮してきた。職員間の連携を密にし、子供の体調把握等もしっかり行っていく。
10	小学校との連携、就学を見通した計画に基づき、保育の内容や方法、保護者との関わりで配慮している。	A	就学に向けて育てたい10の姿を意識し、家庭も同じ気持ちで子育てを進められるようにしていく。また、研修で知り得た内容を保育に生かしていく。
健康管理			
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	A	朝の受け入れ時には必ず保護者から体調の様子を聞き、受け入れを行った。子供の急な体調変化に気づけるよう、職員間で連携した。
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	A	指摘されたことやアドバイスを保護者に伝え、子供たちが健康に過ごせるようにする。
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	A	職員間でアレルギーマニュアルを見直し、
食事			
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	B	子どもたちのペースに合わせた進め方で食事を進める。また、図説話マニュアルを見直し、職員間で周知徹底していく。
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる環境、雰囲気づくりを行っている。	A	給食員のアイデアで、行事食やお楽しみメニューなどを行っている。また、職員間で連携を取り、クッキングを行った。
子育て支援			
家庭との緊密な連携			
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	A	朝の受け入れ時や帰りの引き渡しの際に園での様子を伝えたり、連絡ノート、おうちえん等を利用して、保護者との連絡を取り合ってきた。
保護者等の支援			
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	A	様々な機会を活用し、保護者にとって相談しやすい雰囲気を作っている。
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	A	全職員も視察を欠かさず行い、子供の小さな変化に気づけるように努めた。
保育の質の向上			
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	B	自己評価やセルフチェックを行い、保育の振り返りをした。保育会議で話し合いをすることで、さらなる気づきにつなげていた。